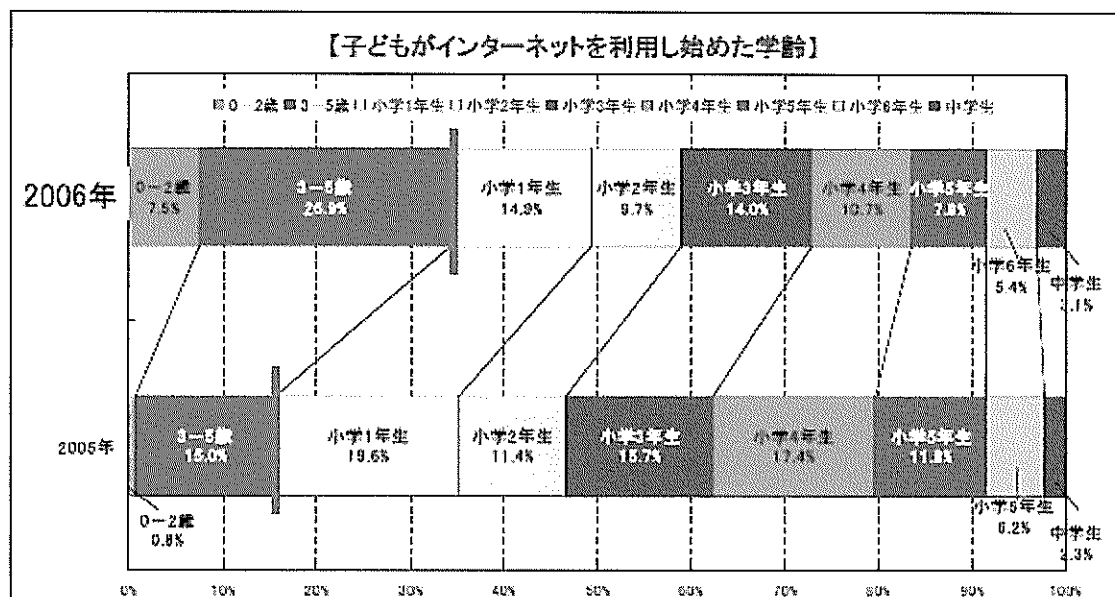


## 1. 事業の背景と目的

情報技術の発達とともに子どもたちを取り巻く環境は大きく変化しています。家庭におけるインターネットの普及率は50%を超え（「2006年第1回家庭内情報関連機器普及率調査」、子どもたちにとってもパソコンやインターネットは日常的なものになりつつあります。



【出典】 goo リサーチ「小学生のインターネット利用に関する調査」(2006年)

特にインターネットは調べ学習での利用が期待される一方、子どもたちを犯罪やトラブルに巻き込むものとして危惧されています。実際2006年8月に実施されたネットスターと朝日新聞社との共同調査によれば、「96%の保護者がインターネットの知識は必要と考えている反面、ネット上の悪質サイトを危惧している」そうです。また「保護者の55%は子どもがネットを使う上でのルールを自身では伝えておらず、ネット教育に不安を感じている」ことも報告されていました。(http://www.netstar-inc.com/press/press060926.html)

【佐世保での同級生殺傷事件】

長崎県佐世保市の大久保小学校で小六女兒が同級生を殺害した事件。インターネットの掲示板への書き込みをする際の言葉遣いなどに関するネットモラルを問う議論が白熱。被害者の発言が加害者の女兒に殺意を抱かせたとされています。

【いじめとネット】(毎日新聞 11月14日(火)付)

(第37回郵便増刊)

毎日新聞 (夕刊) H18.11.14(火)

ブログに大量の中傷／差出人不詳の悪口メール

# 陰湿 ネット いじめ

## 死ななぞ

いじめ 救いの手どこに

削除に感じなかったり、そもそも連絡が付かない場合もある。法務局の人権擁護担当などを紹介したり、警察への届け出など法的対応を勧めることもある」と話す。

インターネットの掲示板サイトで個人攻撃を集中させたり、差出人不詳の悪口メールを多数送りつけるといった「ネットいじめ」が深刻化している。北海道立の高校(札幌市)で撮影されたいじめ現場の映像が、今年3月にネット公開され、今月になってから抗議電話が殺到した問題が発覚したが、この高校はネット公開から映像を半年以上放置していた。ネット絡みの新たな事態に教育現場の対応が追いつかない状況になっている。

【吉永隆美、宇都宮裕一】

山梨県で先月6日、高2の中傷が大量に書き込まれた女子が自殺で精神安定。またたのが原因だった。刺を大量に飲み自殺を図。ネット利用時のモラルな。ネット上に開設してある私立千葉学習塾「プロブレム」(学校を)としている私立千葉学習塾「やめればいじやない」(千葉市)の生徒

邦夫校長は「4、5年前の「インターネットホッからネットを使ったいじめ」トライン連絡協議会」にめがけ始めた。昔、クラは「数年、」で対応ス内でもネリ手紙を回したら「いじめ」の対応は「合った」と同じ感じ「」などとする学校など「」と話す。かきの相談が増えている。財団法人「インターネット」同協会は「プロブレム」や「やめればいじやない」が「」と指摘している。

## 学校、対応追いつかず

しかしながら、学校教育では情報教育を主たる目的とした授業が行われておらず、学校で社会人講師による「インターネットマナー教室」がごく一部の学校に行われているのが実情です。当団体では、過去2年にわたり、社会教育事業として静岡市生涯学習センターや公民館との共催で「親子で学ぶインターネット」講座に取り組んできました。その経験からより効果的な事業実施には“社会教育”と“学校教育”との連携、統一した仕組み（カリキュラム・教材など）が望ましいと考えます。

また、既存の「インターネットマナー教室」はパソコンの基本操作ができるようになる5、6年生を対象に行なわれています。しかし、使用開始期の低年齢化が進む現状やパソコン未使用の子どもたちへ学習機会をつくる配慮も必要です。そこで本格的にインターネットを利用し始める小学4年生を対象とした情報モラル教育の教材と学習プログラムづくりを目指しました。

#### <本事業の目的>

小学4年生を対象とした情報モラル教育の教材と学習プログラムづくり

#### 本事業のポイント

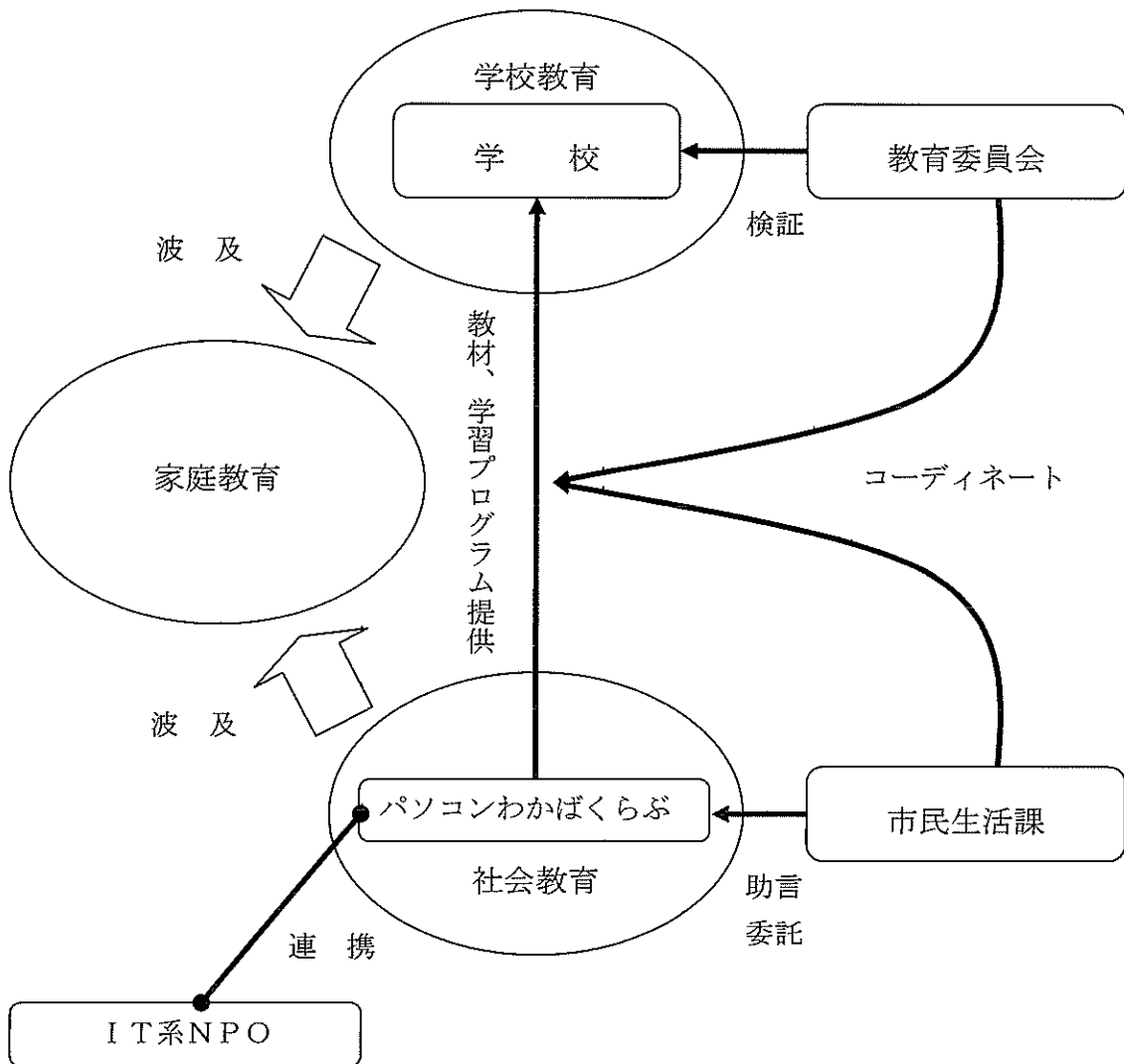
- ◎ 対象は小学4年生
- ◎ パソコン操作を伴わない
- ◎ 児童がみんなで考える参加型プログラム
- ◎ 複数のNPOの協働による企画・運営・制作

## 2. 実施体制

本事業の実施にあたっては、学校、教育委員会、市民生活課との協働だけでなく、協働パイロット事業審査委員会のアドバイスを受け、複数のNPOが協働して事業の企画、運営、制作に取り組みました。

また、児童を通じて、家庭で情報モラルを考えることができるような工夫に取り組むこととしました。

<本事業における協働のイメージ>



### 3. 研究授業までの経過

日	時間	内容	出席者
6/22	14:00～15:00	市民生活課との打ち合わせ	市民生活課（宮城嶋、青木） パソコンわかばくらぶ（小林）
7/10	13:30～14:30	市教育委員会との打合	市教育委員会（小川） 市民生活課（宮城嶋、青木） パソコンわかばくらぶ（小林）
7/27		県教育委員会の教材取寄	市民生活課
8/11		〃 教材再取寄	パソコンわかばくらぶ
		研究授業素案作り	パソコンわかばくらぶ（小林、桜井）
9/4	10:00～11:00	市教育委員会との打合	市教育委員会（小川） 市民生活課（宮城嶋、青木） パソコンわかばくらぶ（小林）
9/中旬		メンバー招集	
9/21		事業計画書再提出	
9/27		事業計画書再々提出	
10/11	10:00～12:00	第一回研究会	静岡PCサポートネットワーク （佐藤、中間） パソコンわかばくらぶ（小林）
10/25	10:00～12:00	第二回研究会	静岡PCサポートネットワーク （佐藤、中間） パソコンわかばくらぶ（小林、桜井）
11/16	11:30～12:20	西奈小学校との打ち合わせ	西奈小（笠井校長、田中先生） 市民生活課（宮城嶋、青木） 静岡PCサポートネットワーク （佐藤、中間） パソコンわかばくらぶ（小林、桜井）
11/30	10:00～12:15	第三回研究会	市民生活課（宮城嶋、青木） 静岡PCサポートネットワーク （佐藤、中間） パソコンわかばくらぶ（小林、桜井）
12/4	13:00～14:30	第四回研究会	市民生活課（宮城嶋、青木） 静岡PCサポートネットワーク （佐藤、中間） パソコンわかばくらぶ（小林、桜井）

12/7	9 : 35～11 : 20	第一回研究授業	市民生活課（宮城嶋、青木） 静岡PCサポートネットワーク （佐藤、中間） e-Lunch（松田） パソコンわかばくらぶ（小林、桜井）
12/7	11 : 30～12 : 20	第一回研究授業・反省会	西奈小学校（笠井校長、靱矢先生） 市民生活課（宮城嶋、青木） 静岡PCサポートネットワーク （佐藤、中間） e-Lunch（松田） パソコンわかばくらぶ（小林、桜井）
12/12	10 : 35～12 : 20	第二回研究授業	市民生活課（宮城嶋、青木） 静岡PCサポートネットワーク （佐藤、中間） e-Lunch（松田） パソコンわかばくらぶ（小林、桜井）
12/27	10 : 00～12 : 00	第五回研究会	市民生活課（宮城嶋、青木） 静岡PCサポートネットワーク （佐藤、中間） e-Lunch（松田） パソコンわかばくらぶ（小林、桜井）